

# 事業実施報告書

法人名                      特定非営利法人アシストさいたま

事業名	すべての子供を笑顔に！地域で学習支援事業 (子供たちが親の収入に左右されず学習する機会を提供)
助成事業の種類	SDGs 推進事業 平和
1. 事業の目的	<p>1) 地域の子供たちへの学習支援</p> <p>2) コロナ禍で孤立した子供たちの居場所づくり</p> <p>3) コロナ後の不安を抱える子供たちへの教育支援</p> <p>コロナ禍での不登校児の増加、親の賃金格差、物価高騰（学習塾、スポーツ教室などを含む）などによる児童への学習支援が行き届いていない現状を鑑み、地域事業として、すべての子供に学習する機会と笑顔を提供することが必要だと考えます。</p> <p>当団体は、コロナ禍に設立したため、大きな活動はできておりませんが、細々ながら、地域の子供たちに学習補助やスポーツの機会を提供してきました。また、障がいを持つ方を受け入れ、マイノリティーの壁を感じずにスポーツをし、楽しむことを子供たちに実感してもらってきました。</p> <p>コロナ禍で学力、運動能力に格差が出ているのを目の当たりにし、コロナ禍で苦しむ方々から相談を受け、地域で支援することの重要性を痛感しました。</p> <p>子供への支援は親への支援にも繋がり、連鎖的成果が期待できる事業です。「誰一人取り残さない」という SDGs の基本理念の実現には、子供たちに平等な教育と笑顔を提供することが一番大事だと考えます。</p> <p>放課後や長期休暇中、学校の先生や家族以外の地域の大人たちと携わることで心の居場所づくりを継続して提供していくことを目的としています。</p>
2. 事業で取り組んだ地域や社会の課題	<p>子供たちと多くかかわる中で、コロナ禍において生じた格差や歪みを感じずにはいられませんでした。</p> <p>本当に困っている人は、困っているという事を自ら発信できないため、地域で居場所を作り、それを広く周知することが大事な課題なのだと思います。</p> <p>居場所を作ることで、自然とそこに人が集まるような環境づくり、そしてそれを継続していくことがこれからの課題だと思っています。</p> <p>IT 教育や英語教育の強化により、体を動かす時間が削られ、時間割（年間カリキュラム）から削られていく水泳教育。それにより、泳げない子が急増しています。コロナ禍でのステイホームもこれに追い打</p>

	<p>ちをかけました。</p> <p>教育委員会は教育現場に頼らず、水泳は水泳教室、英語は英語教室、勉強は塾に行くように推奨していますが、これにより収入格差が教育格差を生みました。地域社会の一員として、すべての子供に教育、笑顔の場を提供することが私たちの課題だと考えています。</p>
<p>3. 取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果</p>	<p>(1) 継続的な学習支援活動</p> <p>コロナ禍で学習に対する不安や学習の進度の差を心配する声を多く聞きこの事業を行いました。行っているうちに、この事業を地域に発信し続けながら継続的に行っていかなければいけないことを実感しました。</p> <p>学習に不安がある子は、自ら率先して勉強の場に来ることはないようです。『年齢の近い大学生が教えてくれるよ…同じ悩みを持つ人がここにいるよ…気軽に来て良いんだよ…』と発信し続けることがとても大事なことです。</p> <p>ものづくりイベントを通して、この場を知ってもらい、学習会に参加するきっかけになった子もいました。学力向上を目指す子も多く来ましたが、外への第一歩を踏み出すきっかけとなった子もいました。コロナ後の子供たちの不安定さを実感しました。この活動は継続的に行っていきたいし、行っていかなければいけない事業なのだと強く感じました。</p> <p>学習指導をお願いした大学生も、コロナ禍で大学に入学したものの、体調を崩したことで大学を中退しました。今回のこの事業を一緒にやってもらうことで再び大学に入学するきっかけにもなり、自信に満ち溢れた表情を見せてくれています。コロナが終息して世の中はどんどん前を向いて進んでいますが、そんな中で取り残され、行き場を失っている人たちはたくさんいます。今回事業を行ったことで地域での課題を多いことを実感し、継続的にこのような事業を行っていかなければと思いました。</p> <p>学習指導については、市販の問題集を活用し、個別の学習進度にあわせての指導を行いました。私塾や大手塾では入塾の際にまず教材を購入するところから始まります。これは。収入の安定しない家庭には大変厳しいものです。教材費がかからないことで気軽に来てくれる場所を提供することができました。</p> <p>参加者は様々で、英検を受験したいので指導してほしいという子。学習しながら、学校に行きたくない話をしてくれる子。保健室登校をしているから学習が不安だという子。多くの不安を抱えている子がいました。</p>

## (2) ものづくりイベント

8月にアクアリウム作り、12月にリース（クリスマスリース）作りのイベントを行いました。このイベントは図工の授業とは違う、好きなようにものを創り出す楽しさを感じてほしいという思いと、このイベントをきっかけに、この場に来てもらうきっかけになってほしいという思いを込めて行いました。

思った以上に好評で、連絡いただいたのを断ることはしないように、1日に複数回開催して多くの人数を受け入れることにしました。

これをきっかけに学習相談に来た子どももたくさんいました。

外に出るきっかけは、人それぞれだと実感しました。

ものづくりをする際に、物の貸し借りや共有することにより人との繋がりが、言葉のふれあい、新たな友達との出会いなどこのようなイベントは地域のためにとっても必要なものだと思います。

実施計画の際に考えていた以上の成果があり、今後の継続的なイベントの実施を考えざるを得なくなりました。

## (3) 定期的なスポーツ教室開催（水泳指導）

海なし県さいたまにおいて、水泳教育は大切な教育なのですが、現在のさいたま市の水泳教育は回数も少なく水泳教室などに通わなければ泳げないのが現状です。親の収入格差によることなく、誰もが泳げるようになる権利があると感じ実施した事業ですが、想像以上に泳げない子が多く集まりました。

『学校の水泳指導はほとんどないので、泳ぐ機会がなく、親子でプールに行っても泳ぐ指導はできないので困っていました。』

『スクールに行くには、初期費用など掛かりすぎてキツイんですね』

『おぼれないようにだけが目標なんです』

など多くの方がいらっしゃいました。

市や県、国ができないことは地域活動としてやっていかなければいけないと実感しました。

募集要項に年齢制限などを設けなかったためか、大人の方もいらっしゃいまして、『泳げるようになった』と喜んで帰られました。親子で参加された方もいらっしゃいました。

今回の事業では、延べ人数で50人以上が参加してくださいました。

参加者は小学生、中学生、大人など様々な方がいらっしゃいました。もちろん障害のある方もいらっしゃいました。

また、問い合わせで、重度の身体的障害を持つ方々のイベントを開催してほしいという依頼もありました。重度の障害のある方を受け入れ

るには別に準備する浮き具などが必要になるため、残念ながら受け入れることができませんでした。そのようなニーズもあるので、今後はそのような要望にも応えられるような体制を築いていきたいと思っています。

※いずれの事業も、健常者、障がい者、マイノリティ、世代の枠など関係なく、一緒に学んで一緒に共生共存できる社会になるための事業を目的として、一定の目標を達成できたと実感しています。今後は、これらをどう継続していくかが課題だと思っております。

時期	内容
7月	スタッフ打ち合わせ ホームページ、SNSにて告知 チラシ配布、各種施設に案内を配架
8月	8/1、8/2 学習体験会を実施 8/6 スポーツ教室実施（水泳） 8/20 スポーツ教室実施（水泳） 8/22 学習支援教室実施 8/23 ものづくりイベント実施 都度、スタッフ打ち合わせ SNSにて告知。当該施設にポスター掲示
9月	9/16 学習支援教室実施 9/17 スポーツ教室実施（水泳） 都度、スタッフ打ち合わせ
10月	10/8 スポーツ教室実施（水泳） 10/14 学習支援教室実施 10/26, 27, 31 Halloween イベント開催 都度、スタッフ打ち合わせ
11月	11/11 学習支援教室実施 11/19 スポーツ教室実施（水泳） 都度、スタッフ打ち合わせ 近隣地域にチラシ配布
12月	12/2 ものづくりイベント実施 12/16 学習支援教室実施 都度、スタッフ打ち合わせ
1月	1/13 学習支援教室実施 スタッフ打ち合わせ
2月	2/10 学習支援教室実施

	<p>○広報実績について</p> <p>当初、チラシを小学校、中学校に配布してもらおうと市にお伺いしたところ、さいたま市は広いため、地域を限定したり、学校を限定して配ることは難しいと断られ、近隣地域にスタッフでポスティングしましたが、かなり困難だったため、業者に印刷とポスティングを委託しました。</p> <p>1回きりのイベントではないため、数回にわたるチラシの配布が望ましかったのですが、予算的に厳しいため SNS などを利用し呼びかけを継続して行いました。チラシはイベント時を目安に配布しました。</p> <p>SNS だけではなかなか拡散も難しいため、チラシはとても重要な役割をしていると実感しました。</p> <p>市の施設（沼影市民プール）などには、継続して掲示していただきました。</p>
<p>4. 事業実施により達成した成果の具体的な内容</p>	<p>この事業を通して、地域社会における孤立や、不安の解消に少しでも貢献できたと思っております。</p> <p>また、居場所づくりや、楽しむこと、人と触れ合うことコミュニケーションをとるためのきっかけ作りができました。</p> <p>社会的に課題となっている学校での水泳授業数の減少による泳げない子が増えているという事に対しても、今回の事業において地域に貢献できました。</p> <p>具体的には、イベントを実施することによって地域でこういう活動をしていることを知ってもらうことができ、そのイベントを通し、心の不安や社会への不安、勉強への不安の解消に貢献できたと思っております。</p> <p>継続して行うことで、少しずつ心を開いたり、不安を打ち明けてくれる子もいました。継続した居場所づくりの大切さを実感しました。</p> <p>また、さいたま市の教育政策とコロナ禍という時期も相まって水泳の授業を受けられず泳げない子が急増していましたが、今回の水泳教室に参加した方々は、みんな泳げるようになり、多くの笑顔を見ることができました。</p> <p>参加した方々から、</p> <p>「本当に泳げるようになると思わなかった。ありがとう」</p> <p>「スクールに行くには本当に費用がかかり厳しかったんです。ありがとう」</p> <p>「一生泳げないと思っていました。ありがとう」</p>

	<p>「これで水害が起きても少しだけ安心です」などの言葉をいただきました。</p> <p>このような事業を地域のみで行うのではなく、もっと多くの方に知って参加してほしいと感じました。</p>
5. 費用面での工夫	<p>今回の事業で、学習、ものづくり、水泳と一つの内容に絞らずに実施しました。そのため、費用面ではかなり厳しいものとなりましたが、物品など削れるものは削り、消耗品の購入にはできるだけ安いもので対応しました。助成金申請時よりも物価も高騰していたため、かなり厳しいものでした。</p> <p>今回は人との関りや、人との繋がり、人の心に寄り添うことが大きな目的になっていたため、人件費を削減しすぎると、寄り添う側が寄り添いきれなくなるので、人件費が事業費の大半を占めることになりました。事業を行っていくうえで開催日時や人員を増やさざるを得なくなり、その際は、協力団体のご厚意によりボランティアとしてご協力いただきました。</p> <p>参加してくださった方々に、埼玉県の実業で助成金をいただいて実施しているのですねと伝えると、皆さん驚いていました。</p> <p>『埼玉県がこんなことをしてくれるのですね。ありがとうございます。』などの感謝の言葉を多数いただきました。</p>
6. 地域社会への還元について	<p>今回の事業を通して、地域社会との繋がり大切さを実感しました。コロナ禍で生じた不安や苦しみなどを受け止めてくれるところはほとんどないようです。</p> <p>教育格差は収入格差によっても生まれているようです。地域の一員としてできることは何なのか？？まだまだ考えながら活動を続けていきたいです。</p> <p>また、同じような活動をしているほかに事業者と繋がって、活動の範囲や幅を広げていきたいと考えます。</p> <p>地域の最前線で聞こえてくる市民の声を行政に伝えながら、地域課題に取り組んでいきたいです。</p> <p>地域課題は、個別性が高く、問題の背景も多様化しているため、市や県による画一的なケアではなく、地域に根付き、地域に寄り添う NPO などに委託していただけることはとても有益なことだと思いました。</p>
7. 来年度以降どう事業を継続し発展させていくか	<p>今回の事業を通して、このような事業の大切さを感じましたが、事業を行うにはやはり諸経費がかかります。</p> <p>今回はじめて助成金をいただき事業を行うことができました。</p> <p>助成金がないとできない事業だとも実感しました。</p>

# 事業収支計算書

法人名 特定非営利法人アシストさいたま

## 1 収入の部

項目	予算額 (円) A	決算額 (円) B	増減額 (円) B-A	備考
県助成希望額	500,000	500,000	0	
自己資金	32,759	57,366	24,607	
事業実施による収入等			0	
その他			0	
合計	532,759	557,366	24,607	

## 2 支出の部

項目	予算額 (円) A	決算額 (円) B	増減額 (円) B-A	備考
会場費	6,600	6,600	0	
通信運搬費		0	0	
旅費交通費		0	0	
消耗品費	185,400	180,104	-5,296	
備品費		0	0	
委託費	18,159	48,662	30,503	
謝金	70,000	70,000	0	
人件費	252,600	252,000	-600	
その他		0	0	
合計	532,759	557,366	24,607	